

海技協会報2024.7
VOL.

152

マリーン・
Japan Marine Construction
Engineering Association
プロフェッショナル



CONTENTS

VOL. 152

海技協会報

ページ

01 巻頭言

・佃・月島の歴史と変化

一般社団法人日本海上起重技術協会 理事 関東支部長
株式会社古川組 代表取締役社長 鳥海 慎吾

04 協会活動

・第38回通常総会

10 会員寄稿「会員の広場」九州支部

・岩盤への鋼管杭の打込み工法「ロックバイプロ工法」

株式会社廣瀬産業海事工業所 東京営業所 所長 岩本 淳

12 会員作業船紹介④ 中部支部

・全旋回式浚渫兼起重機船(125t吊)「青雲号」

青木建設株式会社

17 海の匠「登録海上起重基幹技能者の紹介」シリーズ⑧ 中国支部

大新土木株式会社 今津 宏司

18 マリーンニュース「事務局だより」

23 インフォメーション「お知らせコーナー・販売図書案内」

佃・月島の歴史と変化

一般社団法人日本海上起重技術協会 理事 関東支部長
株式会社古川組 代表取締役社長

鳥海 慎吾



江戸時代に滞留土砂によりできた小さな島を石川氏が拝領したことから石川島と呼ばれるようになりました。その後摂津国佃村より移民した漁民が石川島の南にある干潟を幕府より賜り、漁民たち自らの手で築造をして完成した島に、故郷にあやかり佃島と名付けました。幕府が佃村の漁民に自由漁業の免状をはじめ、特別な扱いをしたのは、本能寺の変に折に明智勢からの追跡から逃れるのに協力した説や当時の江戸には漁村が少なく漁業技術をもつ技能者を必要とした説等があります。

江戸時代後期になると寛政の改革の一環で人足寄場が池波正太郎の小説「鬼平犯科帳」のモデルである火付盗賊改の長谷川平蔵の提案で設置されました。人足寄場は、無宿（戸籍を持たないもの）や軽犯罪者に職業訓練を施し更生と盗賊への転落の防止を図ったものです。現在の刑務所の源流ともなっており、明治維新後は石川島監獄署となり明治中旬に巢鴨に移るまで刑務所と

なっていました。現在では、江戸末期に設置された六角二層の常夜灯が佃公園にモニュメントとして残っています。

江戸末期に、黒船来航による欧米列強への対抗のため、水戸藩に石川島への造船所が設立され帆船や蒸気船が建造されました。明治になり造船所は機材



佃公園・人足寄場常夜灯



佃島渡船場跡

の多くが撤収された跡地を借用し、石川島平野造船所(後のIHI、JMU)と国内初の民間造船所が設立されました。同時に、江戸湾防衛の用に品川から越中島に海岸砲台が設置されることとなり佃島にも70m四方の砲台が造成されました。明治中期になると隅田川河口の航路確保のため大規模浚渫計画により発生した浚渫土を用いた佃島沿岸への築造計画が始まり、砲台跡地も含め現在の月島地区が造成されました。月島の由来は、海に新たに築かれた島「築島」が由来といわれる他、江戸期から湾内にあった月見の名所「月の岬」から名付けられたという説があります。造船所をはじめとした一大工業地帯となった佃島だが、明治中期まで架橋がなく佃の渡しと月島の渡し等の渡し船に頼るしかありませんでした。渡し船により出勤している人々も多く明治38年には、勝鬨の渡しが日露戦争戦勝記念により設置されています。明治36年に相生橋が開通しますが、直後の関東大震災により焼失してしまい、再び開通するのに3年も月日がかかりました。昭和15年に万国博覧会に合わせて勝

鬨橋が完成しました。当時は陸運よりも隅田川の水運を優先させるため可動式として設計されました。昭和39年に佃大橋の完成に伴い、最後まで残っていた佃の渡し船も廃止となり、これにより隅田川流域の渡し船の長い歴史に幕を下ろしました。現在では渡し船跡地として中央区文化財とされておりま

す。このように、佃島では造船所をはじめとした各種工場が多く開業し、交通の便がよくなるにつれ住人も増えていきました。それに合わせて、商店街も賑わいを見せることとなりました。子供たちも増えて路地の駄菓子屋も多く開かれて100件を超える程だったそうです。その駄菓子屋で子供たちに人気だった鉄板の焼台を置き、小麦粉を溶いたもので文字を書いて教えたり遊んだりしていた文字焼きが、もじがもんじと転じてもんじゃと呼ばれるようになったそうです。その後、造船所が移転し、それに合わせて周囲の工場も移転・廃業する中で駄菓子屋も多くが閉店して、もんじゃ焼き屋が商店街に出店していき、今の「もんじゃ



佃島砲台跡

ストリート」となりました。

現在月島は、再開発プロジェクトによって大きく変わりました。特に、高層マンションが多数建設され、住環境が大きく改善されました。これにより、ファミリー層や若い世代の住民が増え、地域の人口構成も変化しています。近隣に商業施設も増加しており、新しいショッピングモールや飲食店、カフェなどが開業し、地域の魅力が高まっています。これにより、住民のみならず観光客も増加しています。高層マンションや商業施設の増加に伴い、外国人居住者も増加しており、国際的な雰囲気が醸成され、多文化共生が進んでいます。

江戸時代より時代の変化を通じて、伝統的な魅力を保持しつつも、進化していく町であります。



もんじゃストリート



現在の佃島・月島

第38回通常総会

第38回通常総会が5月10日(金)開催され、各議案は原案どおり承認されました。総会終了後、功労者表彰式を行いました。その後、国土交通省大臣官房技術参事官 西村様による講演を頂き、夕刻から開催しました懇親会では、関係団体はじめ多くのご来賓の出席を頂き、和やかに懇談が行われました。



挨拶する寄神会長



総会開催状況



寄神会長と受賞者一同

一般社団法人 日本海上起重技術協会
第38回 通常総会



講演会開催状況



懇親会で挨拶する
 寄神会長



衆議院議員
 宮内 秀樹 様



参議院議員
 朝日 健太郎 様



元衆議院議員
 繁本 護 様



国土交通省大臣官房技術参事官
 西村 拓 様



水産庁漁港漁場整備部整備課長
 渡邊 浩二 様



乾杯を行う
 日本港湾空港建設協会連合会会長
 津田 修一 様



中締めを行う
 清原副会長

◆第38回通常総会

一般社団法人日本海上起重技術協会は、去る5月10日(金)第38回通常総会を東京・ホテルルポール麹町において開催しました。

通常総会では、寄神会長から令和5年度会務報告を兼ねた挨拶があり、続いて元衆議院議員しげもとまもる様からご祝辞をいただきました。各議案については審議され、原案どおり承認されました。

- | | |
|---------|--|
| 1. 開催日時 | 令和5年5月10日(金) 14:30～ |
| 2. 開催場所 | ホテルルポール麹町(東京都千代田区平河町2-4-3) |
| 3. 総会議案 | 報告事項① 令和5年度事業報告の件
第1号議案 令和5年度収支決算の件
報告事項② 令和6年度事業計画の件
報告事項③ 令和6年度収支予算の件
第2号議案 定款の変更の件
第3号議案 役員を選任の件 |

上記議案のうち報告事項①～報告事項③及び第1号議案の内容につきましては、「海技協ホームページ」の「海技協とは」の中の「8. 事業報告等」に掲載しておりますので、ご覧ください。

「第2号議案役員の数の変更」により理事が20名以上30名以内と変更されました。

また、この総会をもって理事の野澤良様、深山隆様、渡邊孝様が退任され、第3号議案にて、役員を選任が行われ、富田幸晴様、山本静清様、卜部友典様、岡本清嗣様、坂昭弘様、菅原博之様、村上誠様の7名が新たに理事に選任されました。

なお、通常総会終了後に臨時理事会を開催し、専務理事に富田幸晴氏が選定されました。

役員名簿(令和6年5月10日改選)

会長		寄神 茂之	寄神建設(株)	名誉相談役
副会長		清原 生郎	関門港湾建設(株)	代表取締役社長
副会長	北海道支部長	藤田 幸洋	藤建設(株)	代表取締役会長
副会長	北陸支部長	本間 達郎	(株)本間組	代表取締役社長
副会長	中部支部長	佐野 茂樹	青木建設(株)	代表取締役社長
専務理事		富田 幸晴	本部	
理事	東北支部長	細川 英邦	(株)細川産業	代表取締役社長
理事	関東支部長	鳥海 慎吾	(株)古川組	代表取締役社長
理事	近畿支部長	寄神 裕佑	寄神建設(株)	代表取締役副社長
理事	中国支部長	山本 静清	大新土木(株)	代表取締役副社長
理事	四国支部長	尾崎 憲祐	大旺新洋(株)	常勤顧問
理事	九州支部長	上野 世志史	(株)白海	会長
理事	沖縄支部長	名嘉 康悟	(株)屋部土建	代表取締役副社長
理事		浅賀 雅彦	青木マリーナ(株)	代表取締役社長
理事		梅田 宜嗣	高砂建設(株)	代表取締役社長

理事	卜部 友典	(株)谷村建設	代表取締役社長
理事	岡本 清嗣	九州総合建設(株)	代表取締役
理事	金津 任紀	カナツ技建工業(株)	代表取締役社長
理事	坂 昭弘	勇建設(株)	代表取締役社長
理事	清水 重輝	(株)清水組	取締役会長
理事	菅原 博之	宮城建設(株)	代表取締役社長
理事	壺阪 博昭	(株)吉田組	代表取締役社長
理事	西川 晋司	(株)ソイルテクニカ	代表取締役社長
理事	濱谷 美津男	濱谷建設(株)	代表取締役社長
理事	増田 貴光	福丸建設(株)	代表取締役社長
理事	松浦 泰隆	松浦企業(株)	代表取締役社長
理事	村上 誠	村上建設(株)	代表取締役社長
理事	山本 寿生	深田カバレッジ建設(株)	代表取締役社長
監事	黒子 政治	京浜港湾工事(株)	代表取締役社長
監事	高橋 宏	三国屋建設(株)	代表取締役会長

注) 役員の役割毎の五十音順

■新役員紹介



専務理事
本部
富田 幸晴 氏



理事
大新土木(株)
代表取締役副社長
山本 静清 氏



理事
(株)谷村建設
代表取締役社長
卜部 友典 氏



理事
九州総合建設(株)
代表取締役
岡本 清嗣 氏



理事
勇建設(株)
代表取締役社長
坂 昭弘 氏



理事
宮城建設(株)
代表取締役社長
菅原 博之 氏



理事
村上建設(株)
代表取締役社長
村上 誠 氏

◆協会長表彰

令和6年度功労者表彰式が通常総会終了後行われ、寄神会長から感謝状、表彰状並びに副賞が授与されました。

●特別功労者（退任役員）

協会表彰規程第3条による協会発展特別功労者への感謝状贈呈者

氏名	所属会社	経歴
深山 隆一	山陽建設（株）	理事（H26～R5）
渡邊 孝	（株）谷村建設	理事（R1～R5）

●特別功労者（専門委員会委員）

協会表彰規程第3条による協会発展特別功労者への感謝状贈呈者

氏名	経歴
津田 清司	常任委員会委員（H13～R5）
半田 真司	常任委員会委員（H27～R5）
佐藤 富久寿	事業委員会委員（H27～R5）
小川 健一	技術委員会委員（H15～R5）
原 正行	広報委員会委員（H28～R5）
藤川 勇規	広報委員会委員（H28～R5）
望月 昇	登録海上起重基幹技能者講習講師（H20～R5）

●会員会社の役職員表彰

協会表彰規程第5条による業務精励功労者への表彰状贈呈者

支部	氏名	所属会社	職名
東北	三浦 賢一郎	（株）丸本組	工事所長
中部	河津 直行	河津建設（株）	専務取締役工事本部長
近畿	石田 雅博	寄神建設（株）	執行役員技術研究所長

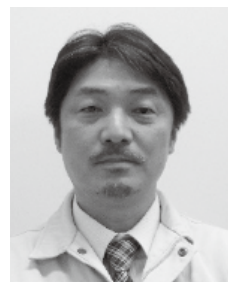
（敬称略）



三浦 賢一郎 氏
（株）丸本組



河津 直行 氏
河津建設（株）



石田 雅博 氏
寄神建設（株）

◆講演会

通常総会后、講演会を開催しました。

「港湾行政の最近の動向」

講師：国土交通省大臣官房技術参事官 西村 拓 様

能登半島地震への対応、令和6年度港湾局関係予算の概要、国会提出の港湾局関係法律案、港湾行政における主要施策に関する現況等などについて、分かり易いご説明で有意義な講演となりました。

◆懇親会

第38回通常総会及び講演会終了後、ホテルルポール麹町2階「ロイヤルクリスタル」において、多数の関係者を招き「懇親会」が行われました。

始めに寄神会長が「当協会は、昭和61年3月に設立以来、海洋工事業の振興と海上工事技術の向上を図ってまいりました。そして現在でも会員が保有する作業船、人材、そして、技術を活かし、港湾等の社会資本の整備や洋上風力等の海洋開発、そして、地域の振興や災害対応に貢献してまいりたいと思っています。国会議員の先生方、官公庁、関係団体の皆様方、そして、本日、ご出席されている会員の皆様方には、当協会の目的と役割をご理解いただき、今後とも、私ども協会へのご支援、ご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。」と挨拶されました。

次に、衆議院議員 宮内秀樹様、参議院議員 朝日健太郎様、国土交通省大臣官房技術参事官 西村拓様、水産庁漁港漁場整備部整備課長 渡邊浩二様、からご祝辞をいただき、日本港湾空港建設協会連合会会長 津田修一様から乾杯のご発声をいただきました。

最後に清原副会長の中締めで盛会のうちに閉会しました。

岩盤への鋼管杭の打込み工法 「ロックバイブロ工法」

(NETIS登録No.KTK-170022-A)

株式会社廣瀬産業海事工業所
東京営業所 所長
岩 本 淳

今回は九州支部に所属します廣瀬産業海事工業所が得意とする「ロックバイブロ工法」について紙面をお借りして紹介させていただきます。

当社は、原油受入施設（1点係留ブイ/多点係留ブイ）・海底送水管/送油管・海底ケーブル・浮沈式オイルフェンス等の設置・メンテナンス・検査 及び 水深1,000mクラスの表層浮魚礁・中層浮魚礁の設置・回収等、国内・海外を含め海洋土木・港湾土木工事全般を行う建設業者です。

その中で「ロックバイブロ工法」は港湾施設築造における鋼管杭や鋼管矢板を岩盤・捨石層・転石層に打込む際に適用される工法です。従来、こうした地盤に鋼管杭を打込む場合には、オールケーシング工法やアースオーガ工法といった先行掘削する方法が採用されることが多くありましたが、「ロックバイブロ工法」は先行掘削作業を不要とし、岩盤、捨石層、転石層に直接打設できる工法です。掘削機や置換砂が不要となるため、現場作業が大幅に簡素化されます。

図-1に「ロックバイブロ工法」の概念図を示します。

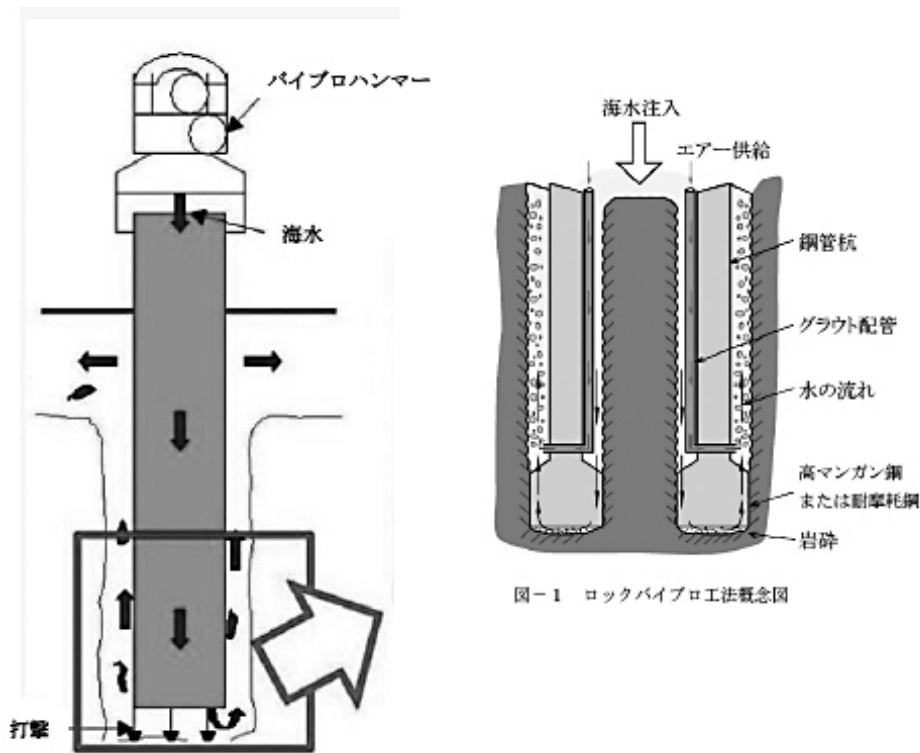


図-1 ロックバイブロ工法概念図

「ロックバイプロ工法」は、杭先端に高い硬度を有する鋼材を取り付け、バイプロハンマーの打撃により岩盤を掘削し、これにより発生した岩砕を杭頭から注入した水（海水）により洗浄することにより、鋼管杭を岩盤へ打設する工法です。岩盤の掘削により杭先端に発生した岩砕は、杭頭から高揚程ポンプで注入した水が杭先端を通って杭内部から杭外面に流出する流れを利用して排出します。ジェット配管を使用しないため、配管の費用が節約されるのみならず、岩盤への打設中にしばしば発生するジェット配管の損傷という問題も回避されます。杭内面には、杭と岩盤の隙間にグラウト（セメントミルク）を充填するための配管を取り付けています。この配管は杭先端から30cm程度上で杭外面に突出させており、グラウトが杭と岩盤の隙間に確実に充填されるように工夫されています。鋼管杭打設中は、エアーコンプレッサーでグラウト配管に空気を送り、杭内部から外面への水の流れを促進します。

「ロックバイプロ工法」による施工実績としては、基盤に風化岩などの岩盤がある地点に設置されたジャケット式防波堤や既設の防波堤の耐震・耐津波対策として捨石マウンドを鋼管杭で打ち抜く補強工法として採用されたケースもあります。最近では、洋上風力発電の着床式風車の基礎構造としてのジャケットやモノパイルの鋼管杭の施工にも採用が検討されています。



大分県佐賀関漁港 ロックバイプロ工法（2本同時打設）



鹿児島市桜島海釣り公園 ロックバイプロ工法

主な施工事例(ロックバイプロ工法)

工 事 件 名	工事場所	工 事 内 容	特 記
佐賀関漁港修築工事(PSR)	大分県	仮受杭φ500×24m 8本 鋼管杭φ1200×25~32m 16本	緑色片岩 6m根入れ
京泊漁港地域水産物供給基盤整備事業2期工	長崎県	仮受杭φ600×15m 12本 鋼管杭φ800×20m 8本	頁岩4m根入れ
桜島海釣り公園整備工事(2工区)	鹿児島県	橋脚杭 4本 鋼管杭φ800×20m 14本	溶岩6m打設
本復第2号本浦漁港水産生産基盤整備工事(復旧・復興)	愛媛県	鋼管杭φ1100×88~90m 4本 鋼管杭φ1300×88~90m 4本	捨石層7m打抜き 鉋滓層18m打抜き
横浜港南本牧地区岸壁(-18m)(耐震)異形部築造工事	神奈川県	鋼管矢板φ1000×44.5~45.5m 64本 鋼管矢板φ1500×41.5~44.2m 14本	捨石層6m打抜き
ミクロネシア3国の海上保安体制強化支援 (パラオ共和国係留施設建設工事)	パラオ共和国	鋼管杭φ700×32.6~33.8m 6本	石灰岩1.5m根入れ

港湾施設で鋼管杭を打設する際に岩盤・捨石層・転石層が存在して、鋼管杭の打設に懸念がある場合には是非、当社「ロックバイプロ工法」の御検討をよろしくお願い致します。

全旋回式浚渫兼起重機船(125t吊)

青雲号



写真-1 青雲号全景

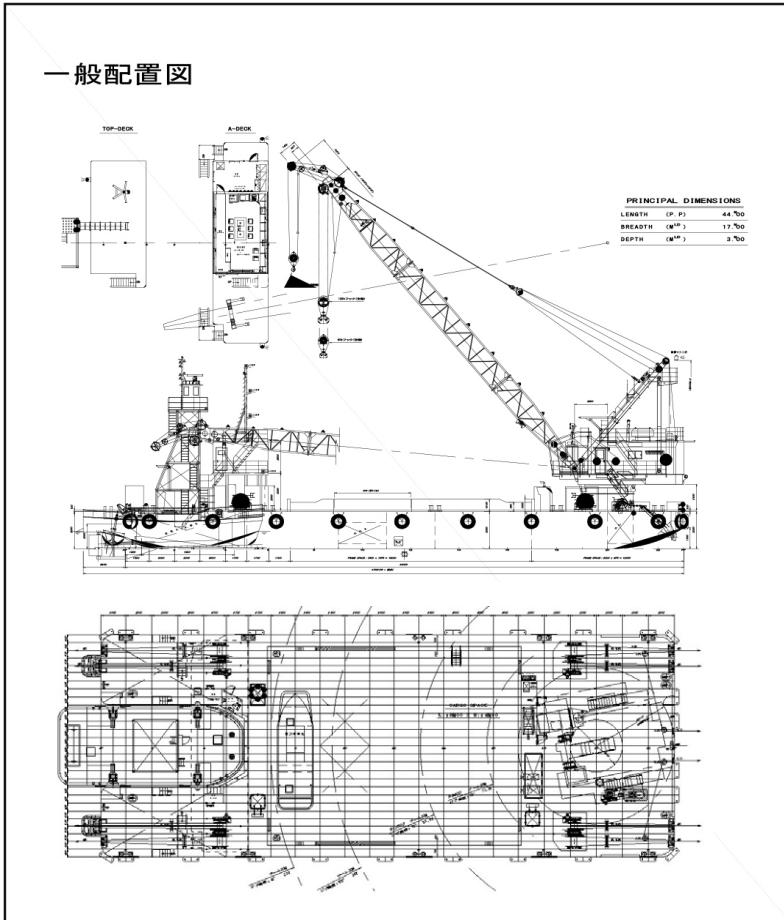
はじめに

青木建設株式会社は昭和2年創業以来、静岡県内を中心とした港湾・漁港での公共事業を柱とし『誠実に、丁寧に、より良い仕事を、より早く』をモットーに様々な実績を重ねてまいりました。

今回は令和6年5月21日に完成しました125t吊全旋回式浚渫兼起重機船「青雲号」を紹介させていただきます。

青雲号の特長

1. クレーン操作室に監視カメラモニターを設置し、クレーン本体内ドラム及びエンジンを監視出来ます。また、ICT 対応の専用モニター架台も同操作室内に設置してあります。
2. 起重機船船首部に180度カメラを取付け、押船に設置したモニターで操舵室から船首部を確認出来ます。



- 3.「国際大気汚染防止原動機」排ガス2次規制適合エンジンを使用し、Nox2次規制適合(窒素酸化物)排出基準(14.4g/kwh)にも適合しています。
4. 居住施設を設けておらず、船員は帰宅或いは陸地の宿泊施設を使用します。
5. 操舵負荷の削減、高精度の針路保持、航程短縮のため、オートパイロットシステムを搭載しています。

青雲号の施工性

本船は当社の主な営業範囲である静岡県東部を中心に稼働しており、比較的小さな港が多いため、どの港にも適応できる起重機船をコンセプトに設計を進めました。バウスラスタ(ポンプジェット)を装備し遠隔操縦装置と組み合わせる事で作業の効率化を図ります。また、甲板にコーミングを設けることで、浚渫土砂・捨石等の積込、運搬が容易になります。

押船については安全性の向上を図るため、台船連結部を油圧圧着パット式4点にて連結しました。また、槽部において操舵室からの目視範囲を広げるためデッキ高さを通常より2m高上げし、目線を海面高さ11.5mの位置へ設定しました。

主要諸元

船体部 仕様 青雲号		
船体寸法	長さ	44.0m
	幅	17.0m
	深さ	3.0m
	喫水	空荷 1.07m 満載 2.5m
載荷面積	甲板上載荷面積	L:19.0m × W 14.6m (277m ²)
積載能力		650t
排水トン数		727t
クレーン部 仕様 SKK-800HD-K型		
起重機船仕様	定格総荷重×作業半径	125t×6.4m ~38t×18.5m (18m ブーム) 72.8t×8.4m ~18.1t×28.9m (30m ブーム)
	補巻総荷重×作業半径	15.7t×18.5m (18m ブーム) 12.7t×31.9m (30m ブーム)
	巻上フックロープ速度	60m /m in
	使用フック	125t, 60t, 15.7t
	バウスラスタ	ポンプジェット SP J57N /335ps 2.0t
浚渫仕様	直巻能力	16t
	巻上ロープ速度	60m /m in
	巻下ロープ速度	100m /m in
	浚渫深度	30m
	許容最大	4.0m 3
	バケット質量	9t(ドレッジャー 2.5m 3)
押船 仕様 第十一青雲丸		
船体寸法	長さ	12.9m
	幅	6.0m
	深さ	2.07m
	喫水	1.3m
総トン数		19t
機関部		1,138ps × 2基
速力		10ノット

会員作業船紹介

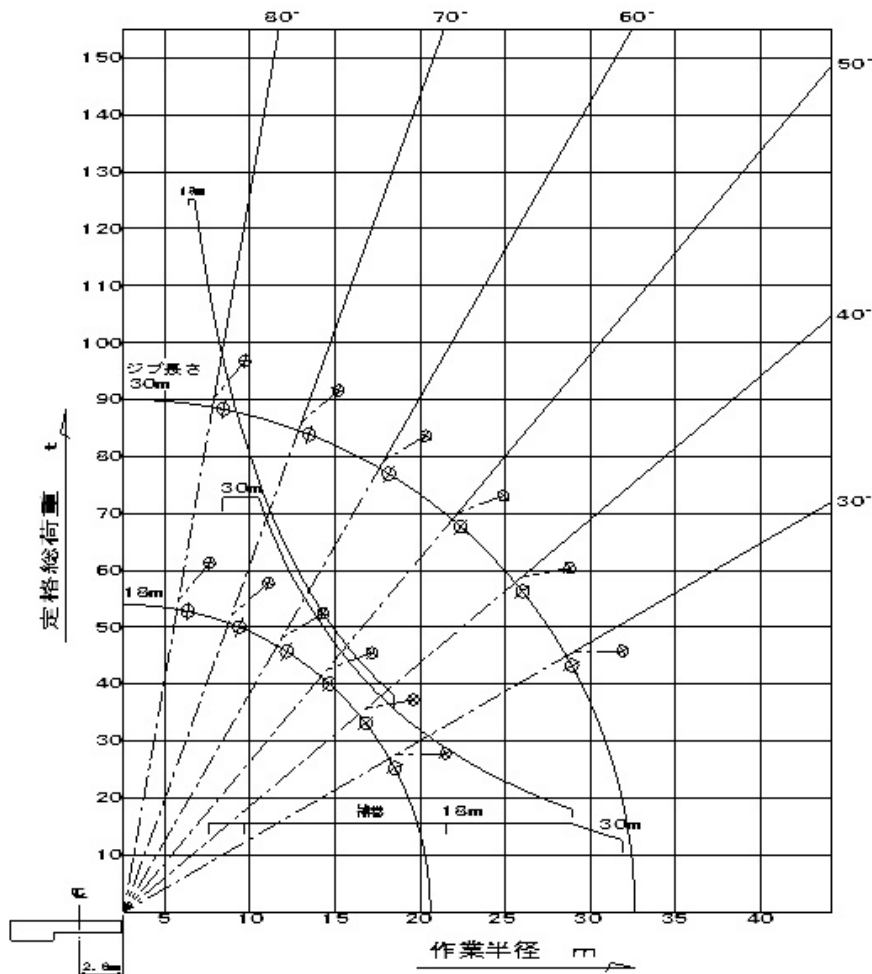
吊上定格荷重表

ジブ長さ	ジブ角度	30°	35°	40°	45°	50°	55°	60°	65°	70°	75°	79°	80°		
18m	主巻	定格総荷重 t	38.0	40.1	42.9	46.3	50.7	56.2	63.4	72.9	85.9	104.5	125.0		
		作業半径 m	18.5	17.7	16.8	15.8	14.7	13.5	12.2	10.8	9.4	7.9	6.7	6.4	
	補巻	定格総荷重 t	15.7												
		作業半径 m	21.5	20.6	19.6	18.4	17.2	15.8	14.3	12.7	11.1	9.4	8.0	7.6	
ジブ長さ	ジブ角度	30°	35°	40°	45°	50°	55°	60°	65°	70°	75°	76°	80°		
30m	主巻	定格総荷重 t	18.1	19.6	21.5	24.0	27.0	31.0	36.3	43.4	53.5	68.8	72.8		
		作業半径 m	28.9	27.5	26.0	24.3	22.4	20.3	18.2	15.9	13.5	11.0	10.5	8.4	
	補巻	定格総荷重 t	12.7	14.0	15.6	15.7									
		作業半径 m	31.9	30.4	28.8	26.9	24.9	22.7	20.3	17.8	15.2	12.5	11.9	9.7	

実際に吊り上げることのできる荷重は、表の定格荷重から吊り具等の質量を差引いた値となります。

主巻 125t フック質量 2.80 t

補巻 15.7t フック質量 0.53 t



装備



写真-2 クレーン操作室



写真-3 押船操舵室モニター



写真-4 船首クレーン部180度カメラ



写真-5 脱着式コーミング



写真-6 ドレヅジャー 2.5m³



写真-7 ドレヅジャー 2.5m³

会員作業船紹介



写真-8 ポンプジェット式スラスター



写真-9 スラスターエンジン
(Nox値 7.7g/kWh<14.4g/kWh)

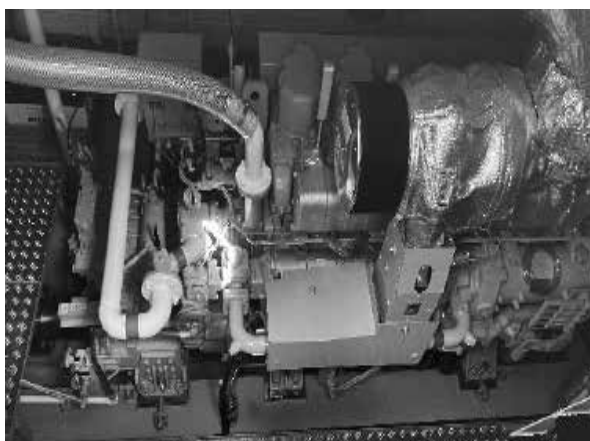


写真-10 押船エンジン
(Nox値 8.2g/kWh<14.4g/kWh)

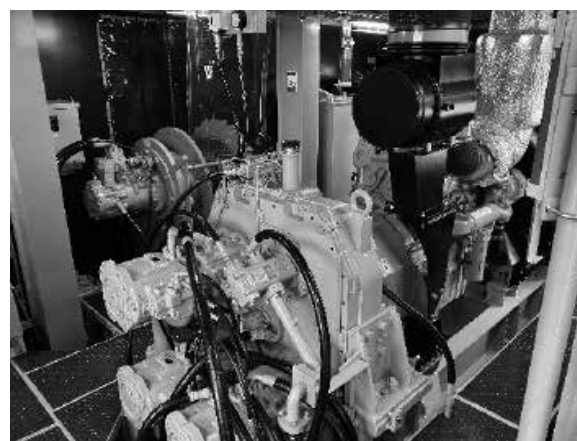


写真-11 クレーンエンジン
(Nox値 7.7g/kWh<14.4g/kWh)



写真-12 サロン

おわりに

おかげさまで、創業してからまもなく1世紀が経とうとしており実績を積み重ね、さらなる信頼を得るべく努力しているところであります。

今般の状況のなかで作業船を所有する当社の責務

として、防災や減災、地域社会への貢献、自然環境を守り地域住民の暮らしを守っていくのだというプライドをもち務めて参りたいと考えております。

今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

中国支部

大新土木 株式会社

いま づ しょう し
今 津 宏 司

プロフィール

- 出身地 山口県
- 生年月日 1963年9月24日
- 職 責 船団長
- 船 団 グラブ浚渫船：第28五大
揚錨船：第58大新丸

● 経歴(資格取得)

- ・昭和58年 3月 入社
- ・平成 9年12月 海上起重作業管理技士 取得
- ・平成22年12月 浚渫船 第28五大
船団長 就任
- ・平成25年12月 登録海上起重基幹技能者 取得

● 主要工事実績

- ・大河津分水路第二床固改築 I 期工事(2023)
- ・新海面処分場Dブロック東側護岸建設工事(2023)
- ・令和4年度東京港中央防波堤外側地区航路泊地
(-16m)浚渫工事(2022)
- ・高松港朝日地区航路(-12m)浚渫工事(2022)
- ・日立LNG基地2021年度バース海域維持浚渫
工事(2022)

● 今後について

作業船に乗船して今年で41年になります。

これまで、砂撒船・グラブ浚渫船の船団長を務め大阪湾フェニックス計画・神戸空港・中部国際空港羽田空港再拡張事業などの国内を代表するビックプロジェクトに携わってきました。

今後は、その経験を次世代の乗組員に伝えていく事が自分の責務であると考えています。

国内の作業船乗組員も、他業種と同じく高齢化と人手不足が深刻な課題となっています。

作業船乗組員という仕事の、やりがいや面白さも若い世代の乗組員に伝えることが出来ればと思っています。



マリーンニュース 事務局だより

本部活動

◇第106回理事会

第106回理事会は、当協会定款第32条第2項により書面による決議により行われました。

理事から議決権行使書を、また、監事から意見表明書をそれぞれいただき、各議案とも了承されました。

(令和6年4月19日付け)

- 第1号議案 令和5年度事業報告の件
- 第2号議案 令和5年度収支決算の件
- 第3号議案 役員を選任の件
- 第4号議案 その他議案の件

1. 協会長表彰候補者に関する件

◇「港湾工にかかる作業船の安全対策について」の講習会の開催報告

沖縄県名護市のキャンプシュワブ内で行われている埋立事業について、その工事関係者で組織するシュワブ関連工事安全連絡協議会より依頼を受け、港湾工に係る作業船の安全対策について講習会を開催してきました。

今後、海上工事が本格化する中、狭い海域に作業船

が輻輳する状態が想定されることから、工事安全に万全を期して実施するためには、工事発注者はもとより各JVをはじめ各JVで構成するシュワブ関連工事安全連絡協議会において、さらなる安全意識を喚起する必要があります。と考え講習会の開催に至ったものと聞いています。

講習会の実施日：令和6年6月18日

10：00～11：00（約1時間）

場 所：キャンプシュワブ内のシュワブ関連工事安全連絡協議会会議室

聴講者：工事発注者及びJV各社 約50名

海技協：富田専務理事、久保地安全対策委員

講習会の内容は、国土交通省港湾局が通知している「港湾空港関係直轄工事の事故防止に係る令和6年度の重点対策について」、海技協が行う海上起重作業の安全管理に係る基幹技能者の確保・育成、これまでの事故事例による注意喚起、船舶防災訓練の実施事例、関空事業で行われたタイヤペンドルにマーキングする等の落下物対策 等々を題材に約1時間ほど話をさせていただきました。皆さん、真剣に聞いていただきました。海技協のプレゼンスの発揮にも繋がったと思います。

聴講者は、港湾や海洋土木の工事経験者がほとんどでしたので、承知している内容かもしれませんが、今後、地盤改良工事をはじめとする大規模工事が予定さ

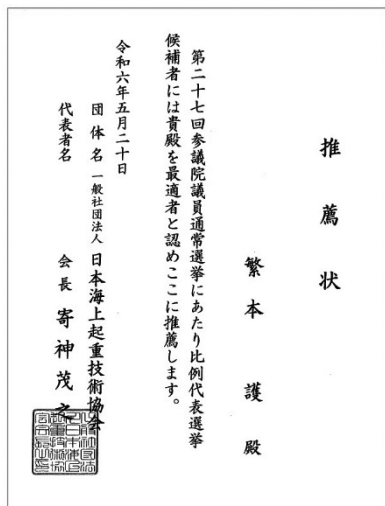


れていると聞いており、あらためて工事安全について
見つめなおすきっかけにさせていただけると幸いに思
います。

最後まで、事故ゼロを目指して工事を展開して
いただきたいと思います。

◇「しげもとまもる」氏への推薦について

第二十七回参議院議員通常選挙に挑戦を表明し、港
湾建設業界の発展に尽力されることが期待される「し
げもとまもる氏」に、令和6年5月20日、寄神会長よ
り推薦状を手交いたしました。協会を挙げて応援して
まいります。



支部活動

◇北海道支部総会

第38回北海道支部通常総会が、令和6年4月17
日(水)午後3時30分から、札幌グランドホテルで
開催されました。

総会は、国土交通省北海道開発局港湾空港部 鈴木
港湾空港部長様、海技協本部より会長代理菅沼常任
委員長様、野澤専務理事様の御臨席をいただき、会員
44社の内43社(内6社委任状提出)が出席し、提
案議案について原案通り承認されました。

総会次第

- 1 開会の辞
- 2 支部長挨拶
- 3 来賓御挨拶

国土交通省北海道開発局港湾空港部長

鈴木 徹 様

(一社)日本海上起重技術協会会長代理

菅沼 史典 様



- 4 本部活動報告
 - (一社) 日本海上起重技術協会専務理事
野澤 良一 様
- 5 議長選出
- 6 議案
 - 第1号議案 令和5年度 事業報告について
 - 第2号議案 令和5年度 収支決算について
 - 第3号議案 令和6年度 事業計画(案)について
 - 第4号議案 令和6年度 収支予算(案)について
 - 第5号議案 その他
- 7 閉会の辞

議事説明内容

- 第1号議案 経過報告について
- 第2号議案 令和4年度収支決算報告及び
会計監査報告
- 第3号議案 令和5年度事業計画(案)及び
予算(案)
- 第4号議案 任期満了に伴う役員改選
【報告】協会の入会
- 5. 本部活動報告
専務理事 富田 幸晴 様
- 6. 閉会

◇東北支部総会

第24回通常総会が令和6年6月11日(火)、仙台市の「ホテルモンテレ仙台」において開催致しました。

会員27社中18社の出席、委任状提出9社を得て執り行いました。議案は全て原案通り承認されました。

また、総会終了後はしげもとまもる氏講演会が開催され、終了後、港湾関係四協会合同による意見交換会が催されました。

総会次第

1. 開会
2. 支部長挨拶 支部長 細川 英邦
3. 来賓挨拶
東北地整 副局長 安部 賢 様
日本海上起重技術協会 会長 寄神茂之 様
4. 議事
議事については、事務局から内容について説明し、監事からの監査報告を受けて参加者全員の承認を得たところです。



◇関東支部総会

第29回関東支部総会を、令和6年5月10日(金)ホテルルポール麴町において開催致しました。

総会は、野澤専務理事の臨席を得まして、会員17社のうち15社の出席、委任状2社のもとで開催され、鳥海支部長代理が議長を務め議案は承認されました。

1 総会次第

1. 開会
2. 開会挨拶 関東支部長代理 鳥海宣隆
3. 議長選出
4. 議事
 - 第1号議案 令和5年度 活動報告
 - 第2号議案 令和5年度収支決算報告
監査報告

- 第3号議案 役員選出
- 第4号議案 令和6年度 事業計画
- 第5号議案 令和6年度 収支予算
- 第6号議案 その他

- 5. 本部活動報告及び協会を取り巻く情勢報告
専務理事 野澤 良一 様
- 6. 閉会



◇北陸支部総会

令和6年6月27日（木）、新潟市グランドホテル「常磐の間」にて、北陸支部総会（本間達郎支部長）を開催いたしました。本部からは、寄神会長と冨田専務にご出席いただき、無事総会を終えることができました。

総会後は北陸地方整備局の佐々木規雄港湾空港部長様から「港湾等に関する最近の話題」と題してご講演をいただき、懇談会には遠藤仁彦局長様と着任間もない神谷昌文副局長様、ほか整備局・県・市・町幹部の皆様にご出席いただきました。また、日港連顧問の前衆議院議員しげもとまもる様からは、ビデオによるご祝辞を頂戴いたしました。参加いただいた会員・賛助会員および関係者の皆様に感謝申し上げます。



◇四国支部総会

令和6年5月30日（木）に通常総会を徳島市のホテルサンシャイン徳島において開催いたしました。

本部からは、寄神会長と野澤前専務理事にご臨席いただき全会員（委任状2）出席のもと、一号、二号議案とも満場一致で承認されました。

総会後には、野澤前専務理事から「作業船の保有・建造における支援の方向」と題して、また、四国地方整備局小松島港湾・空港事務所の高尾俊輝所長には「徳島県内の直轄港湾空港整備事業について」と題して講演をして頂きました。

会員一同においては大変有意義な講演となりました。



その後は、恒例の懇談会に移り四国一円から参集した会員や本部の役員の方との「キャンディーズの蘭ちゃん」談義で大いに盛り上がりました。

◇九州支部総会及び九州地方整備局との意見交換会

第30回通常総会を令和6年6月3日（月）に福岡市博多区にある八仙閣本店で開催しました。

総会は、本部から寄神会長、清原副会長、そして富田専務理事のご臨席をいただきました。大分県津久見市に本社を構える新規加入会員「株式会社甲斐建設」を加えた支部会員44社のうち41社が出席し、議案については全て原案通り承認されました。総会后、富田専務理事より本部の取組み活動状況を報告いただき閉会となりました。

議案としては以下の通りです。

- (1) 令和5年度事業報告及び収支決算の承認について
- (2) 令和6年度事業計画（案）及び収支予算（案）の承認について
- (3) その他



また、総会終了後、九州地方整備局との意見交換会を実施しました。福岡県選出の参議院議員：大家敏志

様にご臨席いただき、公務のためにご退席されるとのことで、開会に先立ちご挨拶をいただきました。

九州地方整備局からは坂井副局長、宮津港湾空港部長をはじめ11名の幹部職員のご臨席いただき、協会本部からは寄神会長、清原副会長、富田専務理事および菅沼常任委員長にご臨席いただきました。

九州支部からは、上野支部長をはじめ九州各地より61名の参加となりました。寄神会長、上野支部長の挨拶に続き、坂井副局長のご挨拶をいただいた後、九州地方整備局の事業概要並びに中長期の見通しや最新の所長プランについてご説明をいただき、事前に頂いた当局の回答書について島村事業計画官より丁寧な説明を受けました。また、自由討議においては九州各地における要望・問題点などに関して様々な議論を行い、屈託のない意見交換の場となりました。



さらに、会場を変えた懇談会では、福岡県選出の衆議院議員：宮内秀樹様（代理）、濱地雅一様（代理）にご臨席いただき、斎藤鉄夫国土交通大臣並びに参議院議員：阿達雅志様からメッセージを頂戴致しました。また、日本港湾空港建設協会連合会顧問のしげもとまもる様よりボイスメッセージを頂戴致しました。最後は、増田副支部長の挨拶で締めくくり、非常に有意義な意見交換となりました。

インフォメーション

海技協 販売図書案内

図書名	概要	体裁	発行年月	販売価格
作業船団の運航に伴う 環境保全対策マニュアル (改訂版) (国土交通省港湾局監修)	作業船団の運航に伴い自らが発生する排水等の環境阻害要因に対する方策を取りまとめたマニュアル 海洋汚染防止条約(マルポール条約)の付属書採択に伴う国内法の改正を反映 ・「港湾工事共通仕様書」に参考図書として記載	A4版 100ページ	平成30年4月	会 員 2,000 円 非会員 2,500 円 (消費税別、送料別)
作業船団安全運航指針 (改訂版) (国土交通省港湾局監修)	作業船団の安全な運航に対する安全衛生管理、操船、係留時等の安全対策及び作業船による架空送電線事故防止対策を取りまとめた指針 労働安全衛生法等の改正を反映、船員労働安全衛生規則に規定されている経験又は技能を要する危険作業に関する事項を新たに記載 ・「港湾工事共通仕様書」に参考図書として記載	A5版 200ページ	令和2年6月	会 員 2,000 円 非会員 2,500 円 (消費税別、送料別)

※購入は「図書名、部数、送付先、担当者、連絡先、請求書あて先」を記入した FAX 又はメールで、協会事務局へ申し込んで下さい。

FAX 番号：03-5640-9303

E-mail：honbu@kaigikyo.jp

●お知らせコーナー●

安全啓蒙ポスター 配布のお知らせ

毎年度「安全ポスター」を作成し、作業員一人一人の意識向上、啓蒙に役立つこと、及び海上起重作業船団の更なる安全運航に寄与することを願うものであります。

会員への配布

「安全ポスター」は、会員には5部配布し、また発注関係官公庁にも配布しております。なお、部数に余裕がありますので、追加配布を希望される会員は協会事務局へ申し出て下さい。



「安全ポスター」

「非自航船における居住設備ガイドライン」及びポスター配布のお知らせ

令和5年3月、一般社団法人日本埋立浚渫協会、日本港湾空港建設協会連合会、一般社団法人日本海上起重技術協会、全国浚渫業協会、一般社団法人日本潜水協会においては、港湾工事の実施に必要不可欠である作業船内における良好な居住設備を確保するため、「非自航船における居住設備ガイドライン」を策定しました。

本ガイドラインの着実な実施を通じて作業船乗組員の適正な就業環境を確保し、もって港湾工事に係る担い手の確保を推進していくものです。

会員への配布

「非自航船における居住設備ガイドライン」A4版の冊子及びポスターは、会員へにはそれぞれ1部配布していますが、部数に余裕がありますので希望される会員は事務局へ申し出て下さい。



「ポスター」

海技協ホームページ「会員専用ページ」の掲載事項 (4月以降掲載分)

〔協会からのお知らせ〕

- 令和5年度事業報告
- 令和5年度収支決算
- 第38回通常総会議案(令和6年4月21日)
- 「公共事業労務費調査(令和6年10月調査)の実施について」(令和6年6月28日)

(注)会員専用ページは、随時更新していますのでご利用下さい。

「会員専用ページ」を開くためには「ユーザー名」と「パスワード」が必要です。当協会事務担当者にお尋ね下さい。

マリン・プロフェッショナル
海技協会報2024.7 VOL.152

禁無断転載

発行日 令和6年7月

発行所 一般社団法人日本海上起重技術協会
広報委員会

〒103-0002

東京都中央区日本橋馬喰町1-3-8

ユースビル8F

TEL 03-5640-2941

FAX 03-5640-9303

印刷 株式会社 TBSグロウディア

